

9/8 [金]

10:30-
12:00



日本橋ライフサイエンスハブ A 会議室
東京都中央区日本橋室町 1-5-5
室町ちばぎん三井ビルディング 8 階

日本製薬工業協会 (JPMA) ・ 日本医療政策機構 (HGPI) 共同シンポジウム

高齢化に伴う健康課題、 認知症とがん

～健康寿命をのばすための早期取り組みについて～

配付資料



岩坪 威 先生



中釜 齊 先生

keynote speech

- 主催：日本製薬工業協会 (JPMA)
- 後援：日本医療政策機構 (HGPI)

開催概要



日本は世界で最も高齢化率が高い国です。長寿国としてだけでなく、健康寿命の長さでも世界をリードしています。一方、高齢化の進展に伴い、世界的に非感染性の健康課題を抱える人が増えており、その中でも認知症とがんは、医療費・介護費、さらにインフォーマルケアコストといわれる家族などが行う介護負担のインパクトが非常に大きいと報告されています。

今回、認知症とがんに焦点を当て、各分野の第一人者の先生方をお招きしたシンポジウムを開催いたします。本シンポジウムの開催が早期の気づき、専門家への相談や備えのきっかけづくりとなり、健康寿命延伸への一助となることを目指します。

名 称	日本製薬工業協会(JPMA)・日本医療政策機構(HGPI)共同シンポジウム 「高齢化に伴う健康課題、認知症とがん～健康寿命をのばすための早期取り組みについて～」
日 時	2023年9月8日(金)10:30～12:00
形 式	Zoomウェビナー ハイブリッド開催
会 場	日本橋ライフサイエンスハブ カンファレンスルーム A会議室 東京都中央区日本橋室町1-5-5 室町ちばぎん三井ビルディング8階
主 催	日本製薬工業協会(JPMA)
後 援	日本医療政策機構(HGPI)
定 員	会場参加 50名、オンライン参加 400名(先着順)
参加費	無料
言 語	日本語
事務局	Healthy Agingシンポジウム事務局(オスカー・ジャパン株式会社 国際事業部) e-mail: healthy-aging2023@oscar-japan.com

プログラム 敬称略



10:30 - 10:35 オープニング

- 中川 祥子 日本製薬工業協会(JPMA) 常務理事

10:35 - 10:50 基調講演 1

「アルツハイマー病の疾患修飾治療法の実現に向けて」

- 岩坪 威 東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授、
国立精神・神経医療研究センター神経研究所 所長

10:50 - 11:05 基調講演 2

「高齢化におけるヘルスケアおよびがんへの取り組みの課題」

- 中釜 斉 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長

11:05 - 12:00 パネルディスカッション

「認知症やがんに対する社会全体での「備え」について考える」

パネリスト

- 岩坪 威 東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授、
国立精神・神経医療研究センター神経研究所 所長
 - 中釜 斉 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長
 - 鎌田 松代 公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事
 - 扇屋 りん 厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 がん対策推進官
モデレータ
 - 栗田 駿一郎 日本医療政策機構(HGPI) シニアマネージャー
-

登壇者プロフィール



岩坪 威 (いわつぼ たけし)

東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授
国立精神・神経医療研究センター神経研究所 所長

1984年東京大学医学部卒業。86年東京大学医学部附属病院神経内科入局。89年東京大学医学部脳研病理助手。92年東京大学薬学部機能病態学教室(寄附講座)客員助教授。98年東京大学大学院薬学系研究科臨床薬学教室教授。2007年東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野教授(現職)、J-ADNI主任研究者。20年国立精神・神経医療研究センター神経研究所所長(兼務)、日本認知症学会理事長。

(受賞歴)

2004年度日本神経学会賞

MetLife Foundation 2008 Award for Medical Research

2010年 ベルツ賞2等賞、Alzheimer's Association Henry Wisniewski Lifetime Achievement Award 2010

2012年 米国神経学会Potamkin賞・第10回高峰記念第一三共賞

2021年度日本医師会医学賞

2022年 ベルツ賞2等賞

*J-ADNI(ジェイ・アドニ):07年より厚生労働省・経済産業省NEDOなどの支援により開始されたアルツハイマー病治療薬開発のための臨床プラットフォームを構築する研究



中釜 斉 (なかがま ひとし)

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長・総長

1982年東京大学医学部卒業。90年同大学医学部第三内科助手。91年米国マサチューセッツ工科大学がん研究センター・リサーチフェロー。95年以降国立がんセンター研究所発がん研究部室長、生化学部長、副所長、所長を歴任。2016年4月より国立がん研究センター理事長・総長。ヒト発がんの環境要因、及び遺伝的要因の解析とその分子機構に関する研究に従事してきた。分子腫瘍学、がんゲノム、環境発がんが専門。

(受賞歴)

2021年10月 日本癌学会 長與又郎賞



鎌田 松代 (かまだ まつよ)

公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事

1956年佐賀県生まれ。看護師やケアマネジャーとして大学病院や特別養護老人ホーム・地域包括支援センターなどで勤務。大学病院を義父の介護で退職したが、義父の介護経験から復職後は在宅看護分野で働く。90年に認知症宅老所でボランティア活動する、当時の「呆け老人をかかえる家族の会」京都府支部の世話人の認知症の人への対応に感銘を受け入会し、認知症を学ぶ。2004年より相次いでアルツハイマー型認知症の診断を受けた実家の両親を11年間遠距離介護。その間に京都の義母もアルツハイマー型認知症の診断を受け、主に夫が介護。

専門職としての認知症ケアとは違う、家族であることからの葛藤はあったが両親の人として姿を知ることでもできた。07年より認知症の人と家族の会理事、23年6月代表理事に就任。

登壇者プロフィール



扇屋 りん (おおぎや りん)

厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 がん対策推進官

2009年に山梨大学医学部を卒業後、東海大学医学部付属病院で臨床研修を修了し、同大学乳腺・内分泌外科学講座に入局。乳癌診療と併行して、乳癌の疫学研究やトランスレーショナル研究に従事。ハーバード公衆衛生大学院修了後、19年に厚生労働省に入省。入省後は医師偏在対策、水際対策(新型コロナウイルス対策)、食品安全施策などを担当。23年より現職。

医学博士(東海大学)、公衆衛生学修士(ハーバード公衆衛生大学院)。



栗田 駿一郎 (くりた しゅんいちろう)

日本医療政策機構 (HGPI) シニアマネージャー

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、東京海上日動火災保険株式会社を経て、2016年に非営利、独立、超党派の民間シンクタンクの日本医療政策機構(Health and Global Policy Institute; HGPI) 参画。自身の祖母が認知症であったことから認知症政策に強い問題意識を持つ。自治体の認知症戦略や認知症条例策定の場にも多数参画。18年、早稲田大学大学院政治学研究科修了(公共経営修士・専門職)。23年現在、東京都立大学大学院人文科学研究科社会福祉学教室博士後期課程在学中。専門は、公共政策(政策過程/社会政策)。日本認知症国際交流プラットフォーム運営委員。



中川 祥子 (なかがわ さちこ)

日本製薬工業協会 (JPMA) 常務理事

日本製薬工業協会 (JPMA) 常務理事、国際製薬団体連合会(International Federation of Pharmaceutical Manufacturers & Associations; IFPMA) カウンシル・メンバー。主にグローバルヘルスアジェンダ、国際委員会、知的財産委員会、アジア製薬団体連携会議(APAC)、医薬産業政策研究所(政策研)などを担当。

京都大学大学院医学研究科専門職学位(MPH) 修了。京都大学博士(医学)。薬剤師。田辺三菱製薬株式会社で中国事業統括部長などを歴任。在任中、中国における希少疾病用医薬品の承認取得に貢献。中国事業以前は、製薬会社、医療機器会社で医薬品開発に従事。2020年に日本製薬工業協会常務理事、IFPMAカウンシル・メンバー、内閣官房 健康・医療産業等国際展開協議会構成員に就任。

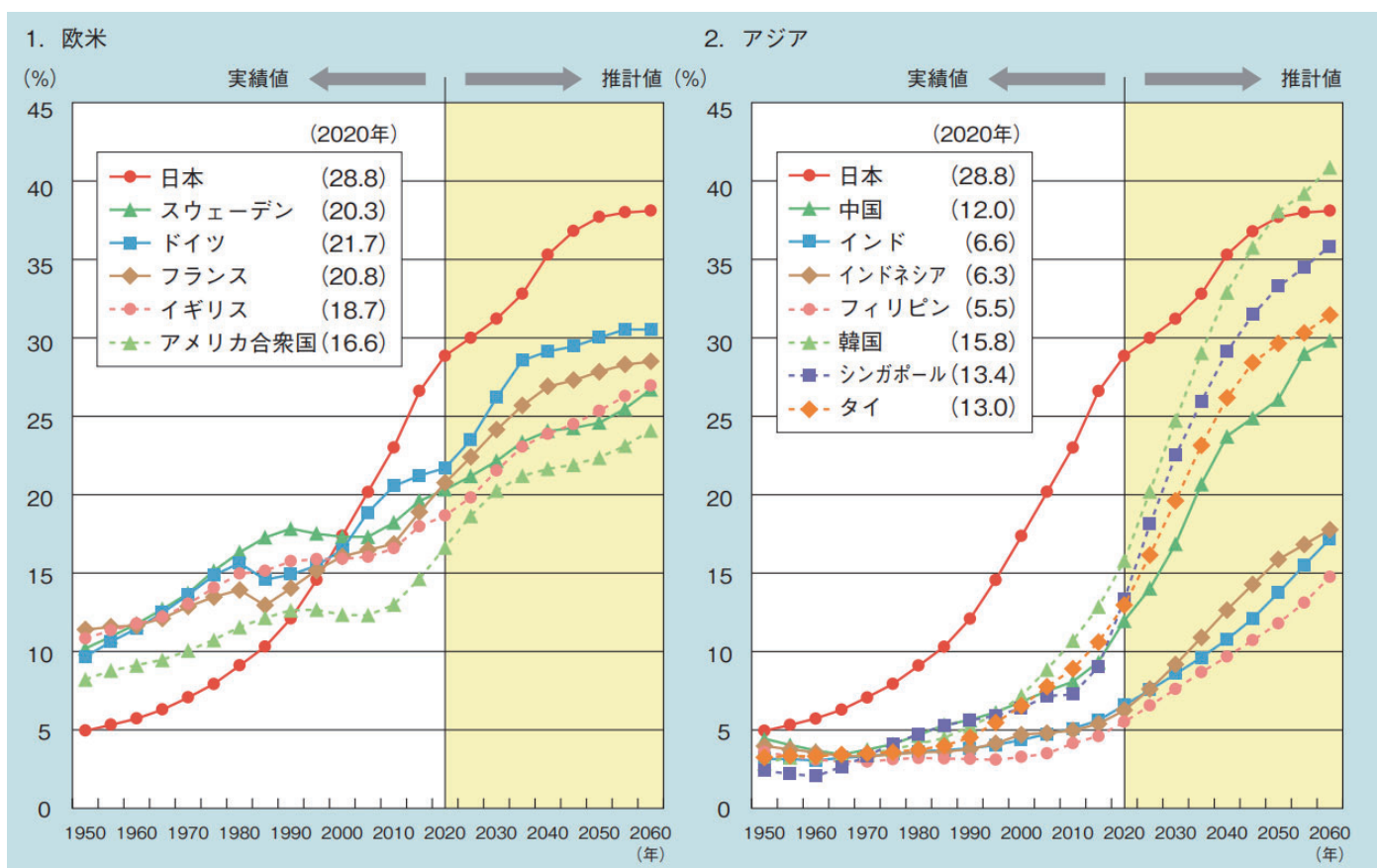


世界で進む高齢化

日本と欧米およびアジア諸国における高齢化の推移の比較

**世界の高齢化は急速に進展し、日本は世界で最も高い高齢化率
一部のアジア諸国では日本を上回るスピードで高齢化が進む**

各国の高齢化率¹⁾



- 2030年には、世界の6人に1人が60歳以上の高齢者になると言われています。
60歳以上の人口に占める割合は、2020年の10億人から2030年には14億人に増加すると報告されています²⁾。
- 2050年には、世界の60歳以上の人口が倍増し21億人となり、その80%が低・中所得国に住むようになると言われています²⁾。

1) 令和4年度版高齢社会白書

2) WHO Ageing and health (<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/ageing-and-health>, accessed August 2023)



世界の健康寿命 (2019 年)¹⁾

	国名	健康寿命
1	日本	74.1歳
2	シンガポール	73.6歳
3	大韓民国	73.1歳
4	スイス	72.5歳
5	キプロス	72.4歳
6	イスラエル	72.4歳
7	スペイン	72.1歳
8	フランス	72.1歳
9	アイスランド	72.0歳
10	イタリア	71.9歳
11	スウェーデン	71.9歳

- ・健康寿命 (Healthy life expectancy; HALE) は世界保健機構 (WHO) が提唱した健康指標で、良好な健康状態を維持していると期待できる年数を 0 歳から数えた期間です²⁾。平均寿命から、寝たきりや車椅子生活など支援がないと生活できない期間を平均寿命から差し引いた年数ともいえます。
- ・WHO (世界保健機関) が発表している 183 カ国を対象とした 2019 年の世界の健康寿命を見てみると、日本は健康寿命が長い国の 1 位にランキングされています¹⁾。

1) Life expectancy and Healthy life expectancy Data by country
(<https://apps.who.int/gho/data/view.main.SDG2016LEXv?lang=en>, accessed August 2023)

2) WHO ealthy life expectancy (HALE) at birth
(<https://www.who.int/data/gho/indicator-metadata-registry/imr-details/66>, accessed August 2023)



- Web サイト <https://www.jpma.or.jp/globalhealth/event/aging.html>
- お問い合わせ Healthy Aging シンポジウム事務局 (オスカー・ジャパン株式会社 国際事業部)
e-mail : healthy-aging2023@oscar-japan.com

